

# 発刊にあたって

発展の証——『奈良大学大学院年報』

奈良大学長 水野 正好

奈良大学に大学院が設置され、修士課程、博士課程が整備されて以来、その研究成果を公表することが強く期待されてきた。修士課程の諸君が資料を求めて各地をめぐり、史料を探して書を繙く、楽しい中にもきびしい学問の姿がともし、大学に一層の学問の府が築かれていく、そうした強力なエネルギーが教官にも、院生にも、学部生にも強く感じられるようになった。学部生も時にはまじり、研究ゼミが動いていく、奈良大学の核として大学院が、その「存在」を顯示しはじめたのである。大学院は単なる研究の場ではない。社会と共にある場でもあらねばならないし、学界への貢献もまた果たさねばならない存在である。本年度は、本学では国際チャマニズム学会などいくつもの学会を開催、学会へも社会へもその研究を公開、普及啓蒙することが出来た。その開催過程を支援し、成功に導いたのも学部生を見事に誘導した院生の力であった。博士課程の設置も終えた本年、まず、修士課程に学んだ諸君の論攷、研究要旨を掲載する『奈良大学大学院研究年報』の発刊を企画、学園の賛同も得てここに第一冊を刊行する運びとなった。内容の未熟さは将来の努力がこれを補うことになるであらうし、編集の拙さは号を重ねる度により適切なものとなるであらう。いまは、第一号刊行を喜び、将来、本誌が奈良大学大学院の総エネルギーを傾けて内容を高め、より美しく、より素晴らしい年報に高められていくであらうことを祈りたい。